

「場所の原風景 高沼田んぼ見沼田んぼ再生都市

ヒートアイランド対策水緑保全再生活用」

ご挨拶

宇杉和夫・大村進・青木義脩（さいたまの森アーカイブ）

現在のまちづくりにとって地域に共有できるコモンイメージを継承することは極めて重要な問題になっています。都市と地域の原風景、都市の原形を再確認・共有することも新たな生活空間・都市空間形成の課題になっています。このような立場で一昨年に「場所の原風景 埼玉会館・県立浦和図書館」を開催しました。今回はさいたま市の中央と東部に広がる高沼の原風景、見沼の原風景には田んぼがかかせないとして、また昨今大きな問題となっているヒートアイランド対策の有効な手法として、高沼と見沼の田んぼを再生することを提案するものです。

埼玉県は西部の山地を除いて、台地と低地が組み合わされた平野が広がっており、県は河川水路と緑の複合的な景観形成を目標にし、さいたま市は荒川と見沼の東西の水緑コリドール構想を柱にしています。一方、中心市街地には都市整備の多くの課題もありますが、高沼市街化調整区域には「高沼用水河童の森」をはじめ、市民参加の環境保全・環境デザインも始っています。今回はこのような背景の中で日本大学宇杉研究室が「高沼・見沼田んぼ再生都市構想」を提案しているので、これを中心に高沼地区を中心として地域の原風景とその保全・活用について展示・提案するものです。

地域に継承されてきた空間システム・景観システムを尊重するまちを形成・創生していくには地域・地区の原風景となってきた空間的記録を収集・展示・解析・交流・継承する活動が重要と認識し、「さいたまの森アーカイブ」活動を開始しました。今回は高沼の環境に意志と活動をお持ちの方々と連携して下記の展示会を企画します。高沼・見沼の地はさいたま市・埼玉県の空間形成の上で常に人々の中心となってきた象徴的な場所であり、多くの方々が共有できる体験空間の蓄積があります。この共有できる空間体験の背後に歴史的経過とその反映があることを知り、それを次の若い世代に伝え、交流を図ることは価値多いものと考えます。

期間 2009年3月3日（火）～3月15日（日）

主催：さいたまの森アーカイブ

共催：埼玉県立浦和図書館（展示会会場）

日本大学宇杉研究室（展示担当：渡辺将智・建築学科4年）

日本建築学会都市形成・計画史小委員会

協力：埼玉県立文書館（検討中）

後援：埼玉県（県土整備部）

さいたま市（都市局）

埼玉県住宅供給公社